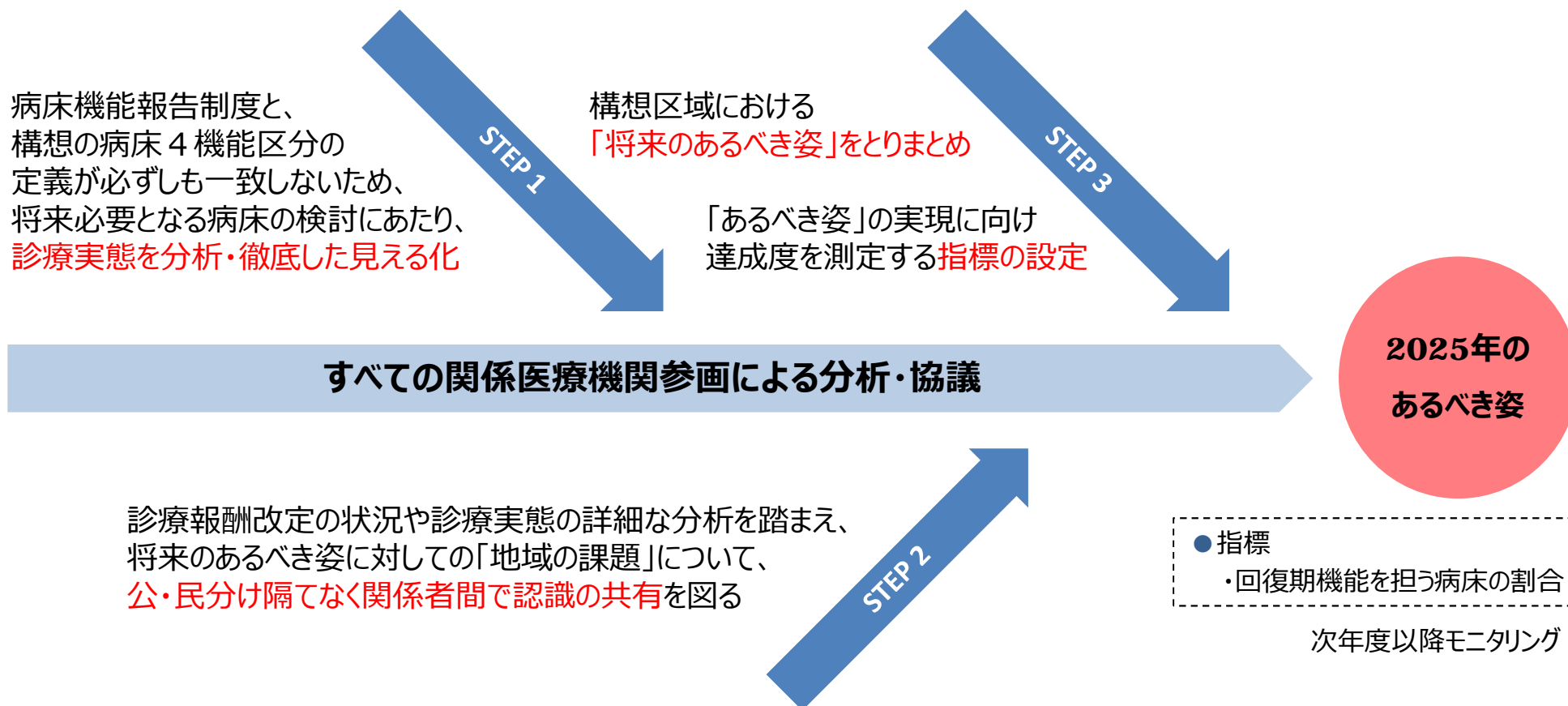


大阪府地域医療構想の推進(大阪アプローチ)について

(1) 基本的な考え方

大阪府における医療実態を可視化し、
すべての関係医療機関の参画による協議を行い、
高い納得性のもと医療機関の自主的な取組みをサポート



(2) 大阪アプローチのポイント

「大阪の、大阪による、大阪のための構想推進」をめざす取り組み

ポイント1 公民一体的協議

民間病院割合が高い大阪府にあっては、**公民一体となった協議が必須**

① 病院の将来プランについての調査

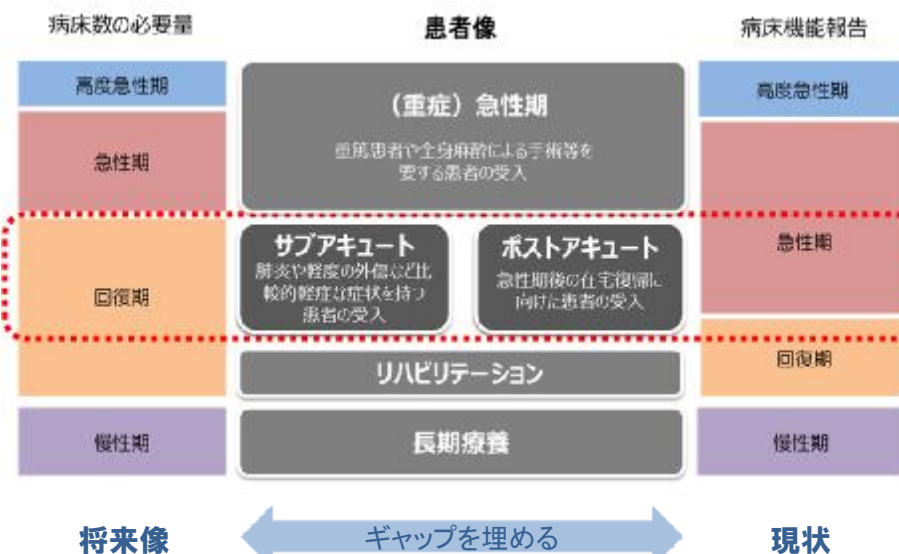
「公的医療機関等2025プラン」を契機に、公立病院、民間病院について同じ内容の調査を実施
構想区域で協議することを前提に、病院からの回答内容が比較検討等に資するよう、自由記載ではなく、データ化に適した**クローズドクエスチョン方式(大阪独自様式)**を採用

② 病院連絡会

病院関係者の参加率が低い(府域全体で10%程度)の地域医療構想調整会議を実質的に補完する、**すべての病床機能報告対象病院の参画による協議の場**

構想区域の現状と課題を共有し、
将来のあるべき姿を協議

ポイント2 診療実態分析(病床機能報告の定量的分析)



診療実態分析により、
「急性期」報告病棟の実像を明らかに

(3) 公民一体的協議

- ・病院プランの提出率は、府域全体で96%
- ・第2回病院連絡会(具体的な協議の場)の病院参加率は、全体で87%

●病院プラン提出率及び関連会議の開催実績等(二次医療圏別)

二次医療圏	病院数	公立	公的	民間等	病院プラン提出率	懇話会・部会 ①	病院連絡会① <参加率>	病院連絡会② <参加率>	懇話会・部会 ②	保健医療協議会 (地域医療構想調整会議)
豊能	43	4	6	33	97.7%	7月5日	9月14日 <79.1%>	10月24日,11月8日, 11月12日 <93%>	11月22日	12月20日
三島	33	0	5	28	100%	7月9日	7月9日 <100%>	11月12日 <100%>	11月28日	12月26日
北河内	58	1	4	53	98.3%	8月22日	9月12日 <93.1%>	11月8日 <98.3%>	11月28日	12月26日
中河内	34	3	1	30	100%	7月26日	8月9日 <88.2%>	11月7日,11月8日 <88.2%>	11月20日	12月19日
南河内	34	2	3	29	100%	7月23日	8月7日,8月10日 <94.1%>	11月16日,11月19日 <100%>	12月11日	1月23日
堺市	39	2	5	32	94.9%	8月1日	8月23日 <84.6%>	12月20日 <87.2%>	1月23日	3月19日
泉州	63	7	2	54	96.8%	7月25日	7月25日 <90.5%>	11月13日,11月14日, 11月22日 <93.7%>	12月13日	1月16日
大阪市	174	4	16	154	89.7%	8月6日	9月5日 <70.7%>	10月1日,10月2日 10月9日,10月10日 <74.1%>	11月12日	1月31日

全体提出率
<95.8%>

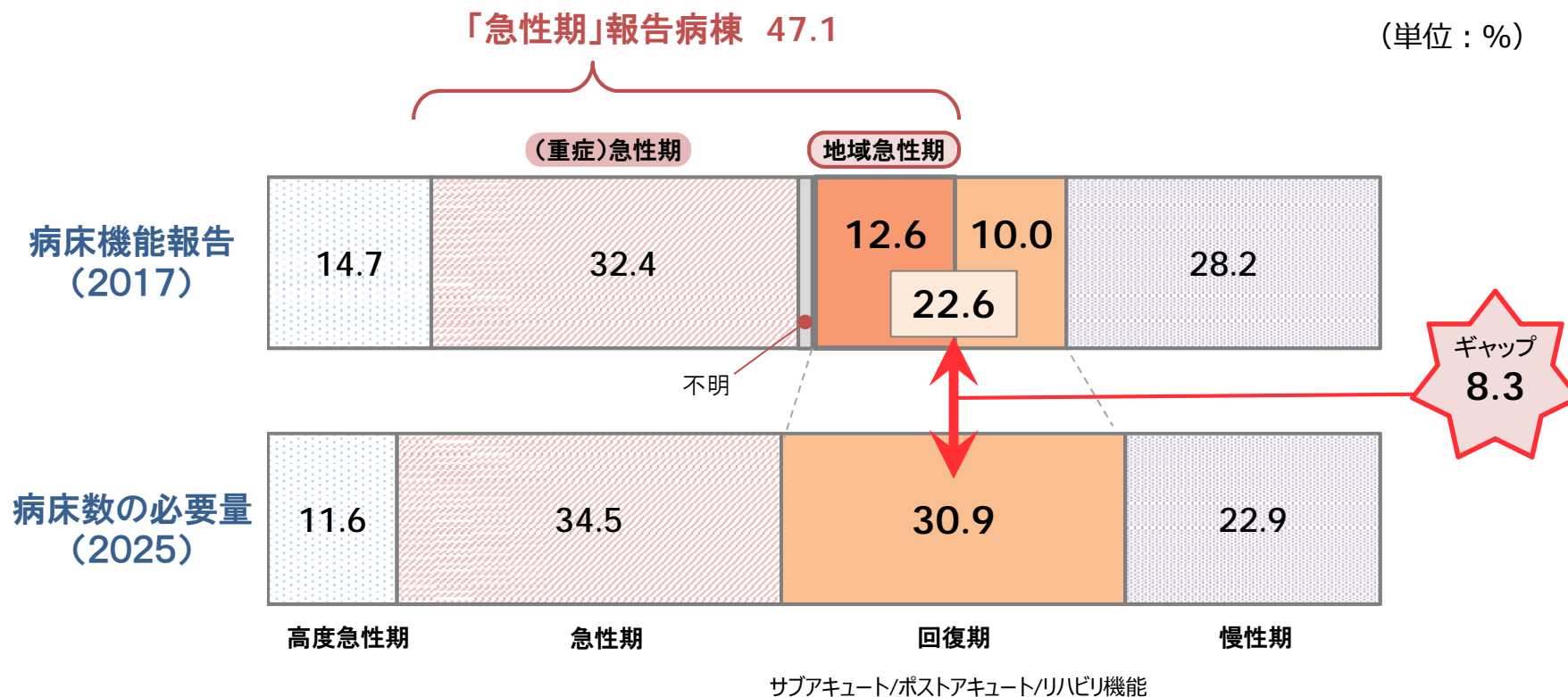
全体参加率
<82.8%>

全体参加率
<87.0%>

(4) 診療実態分析

- 急性期報告病棟の4分の1強が「地域急性期」に分類
- 2025年に必要となる回復期機能とのギャップは約8%分程度

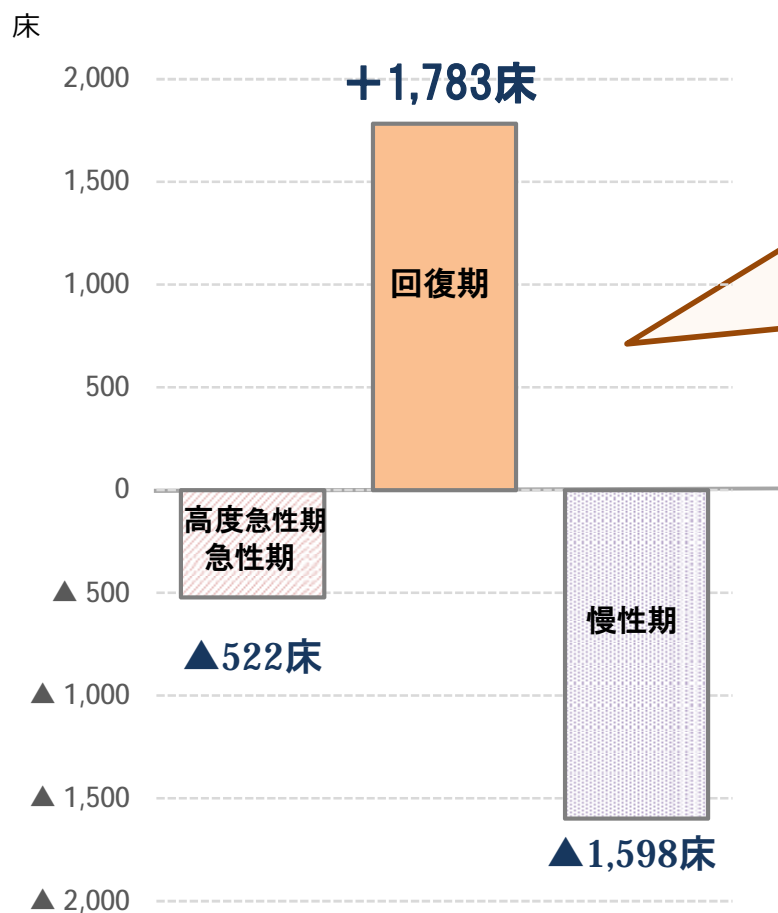
● 病床機能報告(2017年度)と病床数の必要量(2025年)の割合の比較



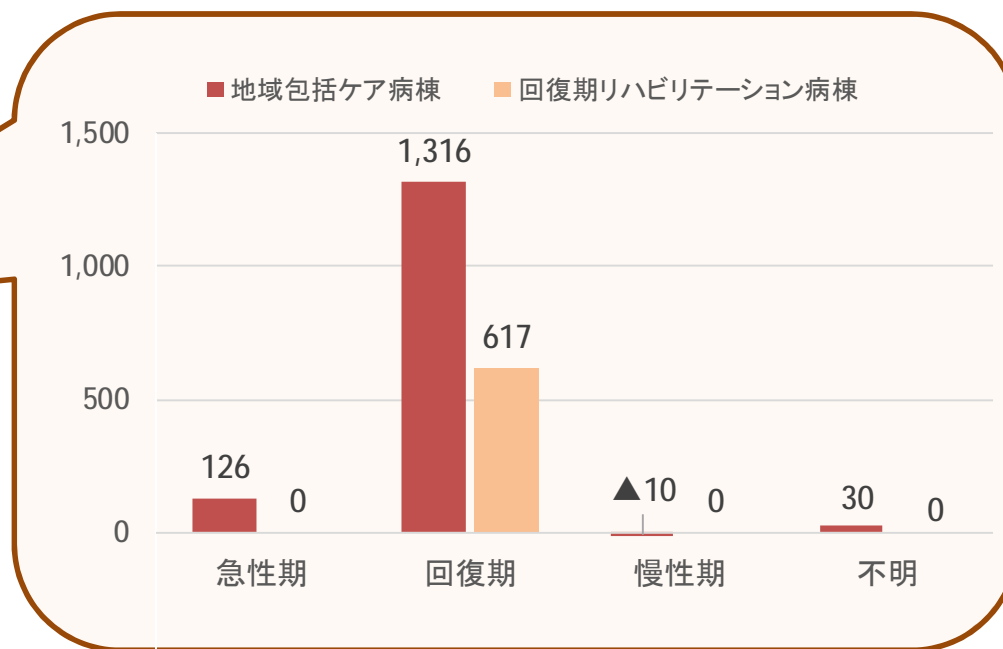
(5) 病院プラン分析

各病院が検討している病床機能等の変更は、
構想がめざす方向性と一致

2025年に向けた病床機能・病床数等の変更予定



回復期機能への変更予定(病棟別)



※回復期の数値は、地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病床以外の病床の増減を含む。そのため吹き出しのグラフとは一致しない。

(6) 2019年度の協議の方向性(案)

2018年度の急性期報告病棟の定量的分析の成果と課題を踏まえ、
取組みのレベルアップにより、納得性、協議の質の向上をめざす

2018年度の成果と課題

- ◎ 定量的分析は、病床機能報告制度の限界を補うものとして一定共通理解
- ◎ 機能分化・連携の具体的な協議は、報告ベースではなく、入院料に収斂



2019年度の方向性(案)

